

新たな人、モノの交流と 星空を生かした観光

信長の腹心、金森長近

「天空の城」として知られる越前大野城。その麓に広がる城下町。福井県の東部に位置し、四方を1000m級の山々に囲まれた大野盆地に小京都とも呼ばれるこのまちを造ったのは、金森長近かなもりながちかという戦国武将である。

美濃で生まれた長近は織田信長に仕え、天正3(1575)年、越前大野に封じられた。

信長の本拠地・尾張や美濃と北陸を結ぶ線は美濃街道。この地を任された長近に対する、信長の信頼の厚さがうかがえる。



天空の城 越前大野城

盆地を見渡す大野城と長近の都市計画

長近が築城した大野城は、市内に小高くそびえる亀山の頂に建つ。現在の天守は昭和43(1968)年に再建されたものだが、自然石をそのまま積んだ野面積みの石垣に往時の面影を見ることができ、城の造営と並行して造られた城下町は、東西、南北それぞれ六本の道で区画した。道幅は一部を除いてほとんどが当時のままである。

長近は上下水道の整備も行った。水源には城下町南東から湧き出る伏流水を利用し、本町から五番の各通りの中央に水路を造り、生活・防火用水を流した。排水用には各屋敷の背中合わせの境に専用の水路「背割り水路」を設けてい

大野市長(福井県)

石山志保

る。自動車の普及とともに上水路はふさがれてしまったが、家と家の間には背割り水路が今も残っている。

活気に満ちた商業都市を目指した長近

長近の入部以前、のちに「古町」と称する町が既に形成されており、美濃街道(穴馬道)に沿って都市的發展を見せていた。長近は「楽市」による外部からの集住を必要とせず、既存の町を拡張させ、既住の領民を移住させることで城下町の整備とし、さらに座の特権を認めて商工業を継続・発展させた。また大野城下町は、当初からヨコ町型(各街区の区割り、主要街道、職人町といった町通りが、城郭に対して横向きに当たる南北方

向に整備されている城下町プラシ)として整備されていた。これは経済の発展を促すものであり、天正期にあつてはかなり先進的といえる。

城下町の中で最も古くからにぎわったのは七間通りだった。城下町の中を通る美濃街道の道筋でもあったこの通りは、御用商人や質屋、酒の蔵元など、大野の経済の中心を担う大商人が軒を連ねた。そしてこの通りで始まった七間朝市は、人々の台所として400年以上続いている。

新たな街道 中部縦貫自動車道と、 ここにしかない星空

時は流れ、交通手段も変化した。長野県松本市を起点に飛騨、





スターランドさかだにの星空

©佐々木 修

美濃、奥越前の険しい山岳地帯を通り、福井市に至る中部縦貫自動車道の福井県内全線開通を目指し、工事が着々と進んでいる。まさしく、令和の越前美濃街道がつながろうとしている。

市長就任後、真っ先に取り組んだ「大野市高速交通アクションプログラム」には、本自動車道の県内全線開通や北陸新幹線の敦賀開業といったチャンスを最大限生かすため、本市が取り組むべき事例を掲載し、着実に推進している。

令和3年4月には、本自動車道



ハンモックに包まれながら星空観察を楽しむ「星空ハンモック」

沿いで、日本百名山「荒島岳」麓に道の駅「越前おおの 荒島の郷」を北陸最大級の道の駅として開設した。民間事業者と連携し、新鮮な野菜や銘菓の販売のほか、同施設内に株式会社モンベルの誘致も実り、多くの来場者でにぎわいをみせている。

さらに、本市には環境省が実施した全国星空継続観察において、平成16年と17年の2年連続で「日本一美しい星空」に選ばれている星空がある。この星空を観光誘客や地域活性化に生かすため、「星空の世界遺産」とも呼ばれる星空保護区の令和5年度認定を目指す」と宣言し、産官学で連携を行い、星空をいつまでもきれいに見える環境を維持するためのさまざまな

取り組みを進めている。

星空を生かした民間事業者の取り組みでは、ハンモックに包まれながら星空観察を楽しむ体験イベント「星空ハンモック」、日本一美しい星空の下でスカイランタンを打ち上げるイベント「星降るランタンナイト」などがあり、参加者も多く、手応えを感じている。かつて街道を行き交っていたに



日本一美しい星空の下で打ち上げるスカイランタン

美濃街道

一口メモ

美濃街道の拠点、奥越の小京都 大野

美濃国の郡上八幡から北西に向かい、山を越えて越前国の城下町北庄（現・福井市）に至る美濃街道は、美濃地方と日本海をつなぐ交易路として越前街道とも呼ばれた。

美濃街道は約80kmの道のりです。現在の国道158号にほぼ沿っています。

美濃と越前との国境に当たる油坂峠は九頭竜川の水源となっており、九頭竜川とその支流は川の道として街道と並び物流を支えていた。

九頭竜川に沿って進み、穴馬谷あなまの山道を抜けた大野盆地の中心地・越前大野は、安土桃山時代に開かれた城下町で、風情あるまち並みを残しており、奥越の小京都と呼ばれている。



大野町略図（安永5（1858）年以降）（大野市蔵）
町名は「大野町通筋・江郎略図」（宝永元（1704）年）（番録家文庫）を参考

企画協力…全国街道交流会議「街道交流首長会」